

横浜市立原学校 令和元年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
心ゆたかに、ともに学ぶ子	自分をつくる力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が主体的に学校運営に参画することで信頼と協働を大切にする「チーム原」を具現化していきます。 ・全教職員が共通指導方針をもつことで児童理解体制を充実させ、子どもの心に寄りそった指導に努めます。 ・子どもの自己有用感・自尊感情を育むことで判断力や行動力、自己表現力を育てます。 ・学力の実態をふまえた具体的な手立てに則った指導に努め、学力の向上を図ります。 ・学校・家庭・地域・関係機関が連携して、子どもの健全育成に努めます。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

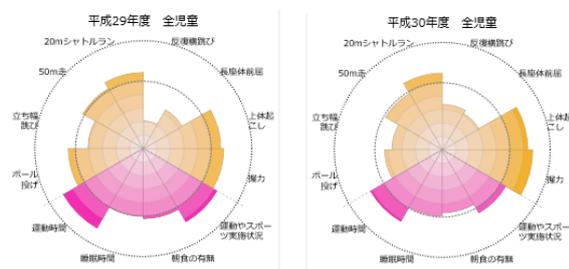
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①一校一実践として校庭に短縄コーナーを作り、児童が目標に向かって取り組めるようにする。 ②横浜市体育協会や地域と連携し、「いきいきキッズタイム」を設け、児童がいろいろな遊びに触れることで、体を動かすことの楽しさが味わえるようにする。 ③すこやか委員会を中心として、朝休みの時間にチャレンジマラソンなどを企画し、体力アップに取り組む。
担当	体育部

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・休み時間やいきいきキッズタイム、ロング昼休みには校庭に出て元気よく遊んでいる児童が多い。また、体育の時間には運動を楽しみながら行う姿が多く見られる。
- ・平成25年度まで校内重点研で体育科を取り上げていた。ねらいを明確にし、できる楽しさを味わわせる指導の在り方を研究した。毎回の体育の授業でねらいを明確にした授業をおこなっている。
- ・児童数、クラス数が多く体育の時間の活動場所が限られている。
- ・児童の実態として、体育に限らずできるようになるまで粘り強く取り組むことが難しい。
- ・放課後の遊びや習い事の中でよく体を動かしている児童とそうでない児童の二極化傾向が見られる。
- ・「早寝・早起き」について毎朝、健康チェックを行っている。寝る時刻が遅い児童が高学年になるに連れて多くなっている。また、朝食を食べていない児童がとても多い。

(2) 体力の概要と要因の分析（小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用）



シャトルランや握力・上体起こしの数値は市の平均を上回っている。反復横跳びや長座体前屈では市の平均を大幅に下回っている。また、基本的な動きである50m走、ボール投げも平均を下回っている。「走る」「投げる」動きを身に付けられるよう、いきいきキッズタイムなども有効に活用していきたい。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・体育科の授業では平成25年度の研究をもとに「身に付けさせたいこと」を明確にした授業づくりに取り組む
- ・保健の授業では養護教諭と連携を図りながら授業づくりを行う。
- ・夏季休業を利用して体育部が中心となり実技研修を行い、運動の特性やポイントを教師がしっかりと学ぶ。

特別活動・総合的な学習の時間

- ・原小オリンピックを通して、友達との関わりを大切にしたり、自分の力を出し切ったりする良さを経験させ、自己有用感を養う。
- ・特活の時間を使って、歯や目の健康指導を行う。ブラッシング指導やノーテレビデイの設定をし、児童が歯や目の健康に目を向けられるようにする。

課外活動

- ・月に1度、横浜市体育協会や地域と連携し、「いきいきキッズタイム」を設ける。普段の休み時間では経験できない運動（ゴムとびやシャトル投げ、ドッジビーなど）ができる場を設定し、児童が体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。
- ・すこやか委員会を中心に、児童の健康面での課題を明確にし、よりよい健康生活のために自分で取り組める土台づくりをする。また年に一度、ペース走大会などを企画し児童の体力向上に努める。

令和元年度 原小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 なわとびチャレンジ

《ねらい》 体力の向上 目標に向かって取り組む力を養う

《内容》 校庭になわとびボード、なわとびゾーンを設置し、休み時間を利用して全校でなわとびに取り組む。

全校で大縄集会を企画し、クラスで協力して目標記録に挑戦する。

- 指 標：
- ①行事後やなわとびカードによる振り返り 「達成度」「満足度」
 - ②次年度の体力テストで検証（シャトルラン・反復横跳びなど）